



5月号をお届けします。風薫る5月、とは言え昨今の温暖化で4月から最高気温25℃以上の夏日が珍しくなくなっていますので、日によっては汗をかきながらお仕事の方も多いため、と思います。特に暑さに身体が慣れるまでは熱中症に注意が必要とのこと、皆様どうぞお気をつけください。

日本酒関係では春先から各地で新酒にちなんだイベントが開催されています。酒造組合や様々な団体のイベントの他、製造場ごとの蔵開きも行われ、蔵によっては何千人もの来場者があるとのこと。「イベントをすると集まってくれるのだけど・・・」とその後結びつける難しさはよくお聞きしますが、人を惹きつける力がある何よりの証拠です。新しいファンを獲得するため、何とかよい知恵を絞りたいところです。

醸造協会が管理団体を務める旧醸造試験所第一工場（赤煉瓦酒造工場）でも3月末からミード、熟成古酒、吟醸酒の各団体がイベントを開催されたり予定されたりしています。日本ミード協会のイベントに参加したところ、試飲会場は入場制限するほどの盛況ぶりでした。恥ずかしながらミード＝ハチミツから造ったお酒ぐらいの知識しかなかったのですが、ミードについての理解を深めることができました。興味深い講演もあり、ぜひ協会誌にご執筆を、とお願いしたところです。赤煉瓦酒造工場は醸造関係のイベントや赤煉瓦ならではの観覧利用（ユニークベニュー利用）にご活用いただけます。詳しくは当協会のホームページで。警備費用をご負担いただければ土日祝のご利用も可能ですので、どうぞお気軽にご相談ください。

さて、今年は東日本大震災から15年となります。本稿執筆時点で、5月9日にNHKの「新プロジェクトX～挑戦者たち～」で福島県の日本酒が取り上げられると発表されています。福島県というと全国新酒鑑評会の金賞受賞数日本一が大きく取り上げられてきました。筆者は（独）酒類総合研究所に勤務していたころ、この鑑評会は県別の金賞数を競うための物ではないのだけど・・・とちょっと複雑な思いを抱いていたのですが、色々な方のお話を伺うと、特に福島では震災と原発事故からの復興を象徴する明るい話題としての意味合いが強いことが分かりました。番組では多くの取組やご苦労が紹介されたことと思いますが、その中にチラッと「きょうかい1601号」が映ったのではないのでしょうか。福島県内では現在1601号はほとんど使われていないとのこと、その画像はNHKの撮影チームが醸造協会での撮影されたものです。拡大培養の容器や試験管に入れた酵母懸濁液を背景や照明を変えながら時間を掛けて何回も撮影されていました。準備のためのやり取りも含め、何秒も映らないだろう映像のためにこれだけの時間と労力を掛けて撮影されるのか、と驚きました。番組をご覧になった方がもう一度震災復興と日本酒に心を寄せてくれることを願います。



新プロジェクトXの撮影の様子

醸造協会からのご案内です。前回の本欄でもご案内のとおり、本年も4月から醸造WEB講習の「新人応援特別割引」を実施しています。「清酒」「ワイン」「焼酎・泡盛」「醤油・味噌」「食酢」の基礎・入門編に加え、昨年配信を開始した「新・麴を学ぶ」も新人応援特別割引価格でご提供いたします。さらに、これら以外のWEB講習（酒造技能検定編を除く）も、受講料を通常価格の3割引きとさせていただきますのでぜひご利用ください。お申込は令和8年7月31日（金）までです。また本号のご案内のとおり、今年のワインセミナーはご都合の良いときに視聴していただけるオンデマンド方式で開催します。今回は日本各地の様々なブドウ品種の取組に焦点を当てました。どうぞご期待ください。